日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな～れ
182号
2016年12月
部内資料
発行責任者　太田　勍　(62-5727)
議員連絡先　うすい孝彦　(62-5093)
服部　久子　(62-4357)
編集責任者　山本　久子　(61-1066)

2016年を振り返って
日本共産党池田ファンクラブ

今年の出来事のなかで特筆するべきは、7月に行われた参院選挙での勝利です。昨年9月19日に強行採決され、成立させられた「安保法制」を最大の争点として選挙が戦われました。

「戦争法に反対する池田町民の会」が昨年6月に結成され、ファンクラブ会員やニュース読者も大勢参加し、反対運動を展開しました。

法案成立後も「戦争法の廃止」「立憲主義、憲法九条を守る」2000万統一署名が提起され「町民の会」もこれに呼応し、2000筆を目標に取り組み、3114筆の署名を集約しました。

これらの運動で参院選1人区での野党共闘を求める声が高まりました。長野選挙区も1人区となり、市民と野党が統一して杉尾秀哉氏（民進党）を擁立しました。

昨年からの運動の積み重ねを力に奮闘し、池田町で3271票を獲得し、県全体で7万千票差で勝利することができました。更に比例代表で武田良介氏も当選しました。皆さんのご奮闘・ご協力に感謝申し上げます。

11月には地球温暖化対策「パリ協定」が発効しました。産業革命（1850年ころ）後の世界の平均気温上昇を1.5～2度未満に抑えるため温室効果ガス排出の「実質ゼロ」を目指します。私たちにとっても切実な課題となっています。

農業では近年毎年のように異常気象で被害を受け、仕事もやりにくくなっていますし、「糸らん」や「忍冬（スイカズラ）」など6月に咲くものが10月に咲くなど草木も狂いはじめています。日本政府の消極姿勢を再生可能エネルギー重視に転換させる運動が必要です。

町政においては、前町長が酒気帯び運転で辞職し町長選挙が行われ、甕町長が当選しました。

共産党池田支部では、町に来年度の予算要求を行ったとのことですので、積極的な施策を期待します。

最後になりましたが、皆さまのご支援ご協力に感謝申し上げますとともに、来年が良い年でありますよう祈念申し上げます。

申から酉へバトンタッチ
来年もよろしく
お願い申し上げます。

コラム 有明

先日、共同通信社が全国世論調査を実施した。それによると臨時国会最終盤にバタバタと強行採決で成立させた「カジノ解禁」については69％が反対とし、居住地域に設置計画が持ち上がった場合、反対は75％だ。パチンコ、競馬、競輪、競艇のカジノ依存症は530万人と言われている。生活破壊・家族崩壊を増長するものに他ならない。▼沖縄で海中に墜落したオスプレイ配備については「見直すべき」が67％，自民支持ですら58％が「見直すべき」としているにもかかわらず、墜落と胴体着陸の連続事故からわずか6日、原因を全く解明しないまま米軍はオスプレイの飛行を再開し、日本政府は沈黙し追認した。住民の安全より優先させるものなどない。▼日ロ首脳会談、北方領土問題、年金制度改革、TPP承認などすべて「評価しない」「よくなかった」が上回っている。▼政府が数の力で遮二無二に押し通した法律・政策は、ことごとく国民から厳しく指摘された形だ。内閣支持率も6ポイント下落した。国民を顧みない政府には、さらに大きな世論で応えなければならない。

シリーズ 池田町の歴史探訪
第8回「泉小太郎」伝説 Ⅱ
三丁目　薄井孝彦

③ 小太郎の植えた桜

松本市蟻ヶ崎のアルプス公園南入口駐車場の近くに小太郎が植え、代々大事に伝えたと言われている枝垂れ桜があります。

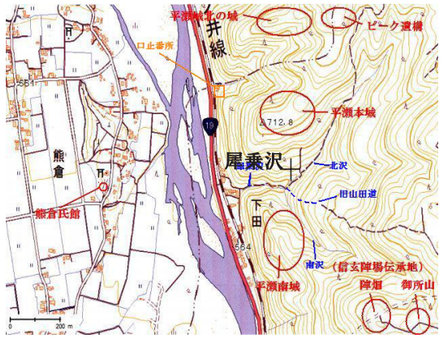
大町ダムサイドにも小太郎と犀龍の立派なブロンズ像があります。

小太郎が母・犀龍と会ったと伝えられている犀乗沢（松本市島内　下田）

④ 小太郎が犀龍に乗った犀乗沢

松本市島内下田に小太郎が母犀龍に会い、その背に乗ったと言われている犀乗沢が平瀬城址の一角にあります。

なお、小太郎は母犀龍と会ったと言われる尾入沢は大町市の大町ダム直下の高瀬川左岸にもあります。その縁で、



犀龍と小太郎で巨岩を突き破ったと言われている山清路（生坂村）

⑤ 山清路

大町市を拓いた仁科氏の歴史書である『仁科濫觴記（にしならんしょうき）』に山清路の工事について次のように記されています。

・仁品王（仁科氏の祖）が都より王町（大町市）に下った際、安曇平が降水時に氾濫して水浸しになることを憂い、山清路の川幅を広げる工事を九頭子という家臣に命じた。

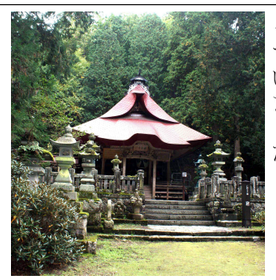
・九頭子は工事は工事技術にたけた「白水郎（あまこ）」の長を日光（ひかる）の頭領にし、施工（＝山征）し、氾濫は止んだ。

・このため、山征をした場所ということで「山征場」あるいは「山征地」と名づけられた。

当町出身の仁科宗一郎先生は、自著『安曇の古代』でこの治水工事の話が「泉小太郎伝説」となり、伝えられているとしています。

⑥ 小太郎が隠れた地 ～大町市仏崎観音寺～

観音寺の管理人に伺うと「小太郎が隠れたと伝わる岩穴は現存する。登り口は観音寺の境内にあるが、危険なので登らせない」と言っていました。



仏崎観音寺（大町市常盤）

⑦ 穂高神社と泉小太郎

穂高神社監修の「図説穂高神社と安曇族」に次のように記載されています。

・小太郎の父白龍王は綿津見命（海の神）であり、小太郎は穂高見命（綿津見命の子ども）である。穂高神社は綿津見命、穂高見命（泉小太郎）とも祭神として祀っている。

・「泉」の字を分解すると「白水」となり、「白水郎（⑤参照）」は古代北九州の海人（あま）集団とされており、安曇族を指す言葉である。

⑤の記述と併せると山清路の工事は仁科氏が命じ、安曇族が中心になり行ったことになる。以上から私は泉小太郎伝説を創ったのは仁科氏であり、安曇族の優秀さを世に知らせたくないので小太郎伝説としたと思われてなりません。

⑧ 犀宮（さいのみや）社

犀宮社は安曇野市明科中川手の国道19号線沿いに鎮座しています。小太郎の母である犀龍を祀っていると言われており、犀龍の体が赤かったことから祭りでは赤色の幟（のぼり）を立てます。

⑧ 田沢神明宮の船石

田沢神明宮は安曇野市田沢の光城山の南側、県道57号の脇に鎮座しています。小太郎の恩に報いんと天の磐船（神々が降臨する際に使った船）を造り献げおきしところ何時しか石の船に変わったと言われている。

天文年間心なき者がこの船石に砕かんとしたところ神罰により死せりと伝えられる船石